

### 児童の実態

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果では、『話すこと・聞くこと』の領域において、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える」出題の正答率が全国正答率より7.8ポイント、「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」出題の正答率は4.5ポイント上回っていた。このことから、話の要点を聞き取ることや自分の立場を明確にする力は身に付いていることが分かる。しかし、実際の授業において、話し合い活動では話し合いの目的や友だちとの意見交流を通して様々な視点から検討し、自分の考えを広げたり、互いの共通点や相違点等をまとめたりすることには弱さがあると感じる。そこで、付けたい力や話し合いの視点を常に可視化し、児童と確かめ合いながら、学習を進めてきた。

学年当初は、自分の考えや思いを伝えることに苦手意識をもっている児童が多くいた。そこで、ペア活動や小グループでの話し合い活動を意図的に設定したり、目的をもった話し合いを続けたりすることで、ペアや小グループの活動では考えや思いを伝えることができるようになった児童が半数近くになってきた。しかし、全体共有の場面では肯定的評価が3分の1程度となり、まだまだ弱さが見られる。2学期に行った「町の未来をえがこう」の単元では、四万十市の未来についてグループで話し合いを重ね、プレゼンテーションの製作や市役所の人たちに自分たちの考えをどのように伝えようかというのを考えながら学習を深めていった。単元の振り返りでは、「大人の前でこんな風にプレゼンテーションを行ったのは初めてだったので、緊張のあまり練習通りにいかず、早口になってしまった。」「思いや考えを伝えることの難しさを感じた。」「聞き手の反応を見ることができなかった。」などの感想が多くあった。相手を意識して話すことや自分の考えや意見を表現することの重要性に気づき、発表や話し合い活動の中で取り組んでみようという意欲を示す姿が見られるようになってきた。

### 単元デザイン

本単元の重点指導項目は、学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕の「A 話すこと・聞くこと」(1)ウ「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」である。児童はこれまでに自分の意見を伝えるために、自分の立場を決めて、理由や事例などを挙げ、相手を納得させるような構成や話し方を考えてきた。本単元は、6年間の出来事から自分の成長をもとにもった思いをスピーチする活動を通して、聞き手に自分の思いが伝わるように話す力を身に付けていく。本年度は教科担任制となり、複数の先生と学習する機会が増えた。また、最上級生として縦割り班活動や委員会活動などでたくさんの先生方との関わりが多くあった。そこで、自分たちの成長を身近で見てくれていた先生方を招待し、思いを伝える茶話会を単元ゴールとして設定することで、児童のスピーチへの意欲が高まると考える。

第一次では、聞き手に意図が伝わるような話し方の工夫についてイメージを広げながら、学習計画を立てていく。児童が、より具体的にスピーチの仕方のイメージをもてるよう教師が見本を簡単に見せる。自分の思いが伝わるスピーチにするには、どのような力が必要なのか友だちと話し合いながら学習の見通しをもつ。第二次では、「卒業文集を作ろう」で書いた文章をもとに、話す内容や話し方を考えながら聞き手を意識したスピーチを作っていく。「町の幸福論」の振り返りを想起させながら、自分の思いを聞き手に伝えるためには、聞き手の興味・関心などを予想したり、相手の表情や反応をよく見て話題を振ったりすることが重要であることも意識していきたい。そのため、自分が伝えたい内容が伝わっているのかを確認するため、ペアで聞き合う活動を設定する。話す内容、話し方など表現の工夫について、お互いにアドバイスをしながらスピーチを高めていきたいと考える。また、言葉だけでは伝えにくいと考えられる場合は、これまでの学習を振り返りながら、写真や実物などを資料として提示しながらスピーチすることも共有していく。第三次では、先生方を招待し、茶話会を開く。先生方を含めた小グループを作り、各グループで思い出を語り伝えながら和やかな雰囲気の中でスピーチを行い、本単元のまとめとしたい。また、ここで培った力は、2月に行われる参観日の発表や生活の中で活かしていきたいと考える。

### 研究主題に迫る手立て

安心できる学級・学校づくり

～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

- 【自己決定】思いが伝わるよう表現を工夫できるようにするために、構成メモを作成する。
- 【自己存在感】お互いのテーマについて知るために、スピーチの題名を掲示する。
- 【共感的人間関係】自分の思いが聞き手に伝わるようペアで聞き合う活動を設定し、アドバイスし合う。

### 伝えよう 自分の成長を 語ろう 6年間の思い出を 聞いてほしい この思い〈全5時間〉

学習活動	①学習の課題を確かめ、学習の見通しを立てる。 ・6年間の振り返り、自分の成長について書いた卒業文集をもとに、スピーチに向かう。 <b>第一次</b>	②話し言葉、書き言葉の違いやスピーチのポイントなどを考える。 ③スピーチの構成や言葉の使い方など話すときの工夫を考えて、聞き手を意識してスピーチメモを作る。 ④聞き手に思いが伝わるように表現の工夫を考えながら、練習する。(本時) <b>第二次</b>	⑤「集まろう会」を開き、スピーチを行う。 <b>第三次</b>
	言語活動	聞き手を意識して、自分の成長をテーマにスピーチしよう。	
見考方	自分の思いが伝わるように、聞き手の興味を引く構成や話し方の工夫をすることができる。		

### 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・話し言葉と書き言葉の違いに気付いている。【(1)イ】	・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。【A(1)ウ】	・これまでの学習や経験を振り返って学習課題を明確にし、見通しを持って粘り強く自分の考えが伝わるような表現の工夫を考えて、スピーチしようとしている。

### 単元の主な資質・能力

#### 1・2年

伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどをくふうすること。

#### 3・4年

話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

#### 5・6年

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

### 単元の目標

#### 【知識及び技能】

・話し言葉と書き言葉の違いに気付くことができる。(1)イ

#### 【思考力、判断力、表現力等】

・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。A(1)ウ。

#### 【学びに向かう力、人間性等】

・言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

### 本単元終了時の目指す児童像

自分の考えが伝わるように、論の進め方、資料を活用、相手に応じた言葉使いなどの表現を工夫することができる。

#### 中1年

相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

**本時の目標** 聞き手に思いが伝わるように、話す構成や話し方の工夫を考えてスピーチの練習をすることができる。

**本時における見方・考え方** よりよいスピーチにするために、聞き手の興味を引く構成や話し方の工夫について考えることができる。

<p><b>学習の流れ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構成メモをもとにスピーチを聞き合う。</li> <li>2. お互いに気付いたことを発表する。</li> <li>3. 課題からめあての確認をする。(全体・個人)</li> <li>4. めあてをもとに練習する。(個人→ペア→アドバイス)</li> <li>5. 全体で共有する。</li> <li>6. ふりかえり</li> </ol>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>ふりかえり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスされてよかったこと。参考になったこと。</li> <li>・学習したことがどんな場面で使えそうか</li> </ul> </div> <div style="width: 30%; text-align: center;"> <p>強調 間 目線 問いかけ 資料のタイミング 丁寧な言葉遣い</p> </div> </div>	<p><b>評価</b></p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> 観察・ノート（構成メモ） 聞き手を意識して、自分の考えが伝わるように資料の提示や話し方を工夫している。</p> <p><b>B評価</b> 資料の提示の仕方や話し方を工夫している。</p> <p><b>A評価</b> 聞き手の興味・関心を予想したり、聞き手の反応を見たりしながら、資料の提示の仕方や話し方を工夫している。</p>
---	---	--

つかむ・見通す  
(話し合いの進め方・検討)

◆課題をつかむ。  
T: 昨日の振り返りを紹介しますね。  
伝えたいことの順序・聞き手が興味を引きそうな問いかけスピーチをやってみよう。  
C: もっと練習が必要。  
C: 話の内容が分かりづらかった。  
T: では、今日は、スピーチの練習をしていきましょう。  
どんなスピーチにしたい？  
C: 自分の思いが伝わるようなスピーチにしたい。  
C: 先生に興味をもってもらえるようなスピーチにしたい。

◆本時の課題を知る。

思いが伝わるようにスピーチの練習をしよう。

T: 思いを伝えるために大切だったことは何かな？  
C: 話し方の工夫  
C: 話の内容  
※個人でも具体的なめあてを作成する。

解決活動  
(考えの形成)

◆ペアでスピーチを聞き合い、アドバイスし合う。  
※受けたアドバイスをもとにスピーチメモに付け加える。  
C: 聞き手に思いを伝えるには、目線に気がつけた方がいいと思う。  
C: それに、強調も必要だと思う。伝えたいことの中点になるところは、強めることが大事だと思う。  
C: 写真を提示してくれているから、話の内容がよく分かるね。写真を出すタイミングはどうか？  
C: 言ってもらった言葉があるので、イメージしやすかった。  
C: 話の導入に、知っていることわざが出てきたから、興味がわいて、もっと聞きたいと思った。

◆ペアでアドバイスし合ったことを全体で共有する。  
T: スピーチを聞き合って、どんな気づきがありましたか？  
C: 聞き手が先生だから、どんな言葉遣いをするのもっとよいスピーチになるのかを考えさせられました。  
C: 写真もあるので、想像しながら聞くことができると思います。資料の必要性を感じました。  
C: はやくスピーチしすぎて、内容が伝わりにくかった。だから、相手の反応や表情をよく見て話すことが必要だと感じました。  
C: 聞き手を引きつける工夫をもっと考えてみたいと思いました。

◆アドバイスを意識して新しいペアで練習する。  
※もらったアドバイスはスピーチメモに付け加える。  
※時間に余裕あれば最初のペアで再度行い、よくなっている所を確認し合う。

まとめ・ふり回り  
(共有)

◆ふりかえり  
※自分のスピーチが聞き手により伝わるようにするにはどうすればさらによくなるのか、学んだことがどのような場面で生かせるのかなど、自分の学習を振り返り次の学習へつなげる。